

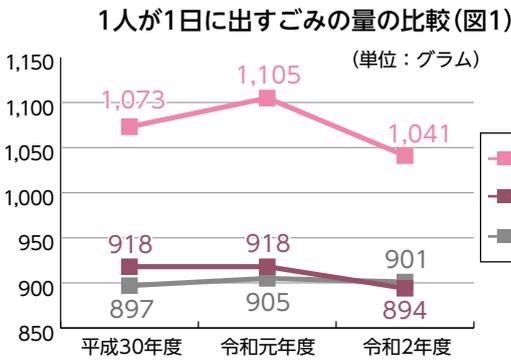
そのひと手間がゴミを減らす手段です

成田富里いずみ清掃工場に持ち込まれる可燃ごみの量は、計画処理量を超えています。ごみの削減は、私たちがすぐに取り組むべき大きな課題です。一人一人ができることから始めましょう。

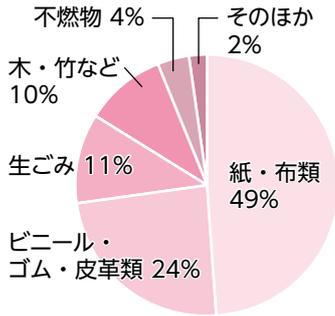
成田市のごみの現状

増える処理量と財政負担

成田富里いずみ清掃工場では、本市と富里市から排出される可燃ごみを高温で溶かして処理しています。



令和3年度の可燃ごみの内訳(図2)



全国平均よりも多いごみ排出量

令和2年度に市内の家庭や職場

建設時は年間のごみ処理量を5万4,000トンと想定していましたが、近年の搬入量は5万5,000トンを超えており処理限度を超えたごみは、外部の処理施設に処分を依頼しています。その処理費用は、平成30年度から令和2年度までの3カ年平均で約1億4,000万円で、財政的にも大きな負担が発生しています。

から出たごみ(一般廃棄物)は、5万1,699トンで、市民1人1日当たり換算すると1,041グラムとなります(図1)。

全国平均と比べると147グラム多く、県内平均より140グラム多くなっていることが分かります。

可燃ごみの半分がリサイクルできる資源物

令和3年度に成田富里いずみ清掃工場に持ち込まれた可燃ごみの内訳は図2の通りです。

本来は資源物である紙・布類が全体の半分近くを占め、多くの資源物がリサイクルされずに処理されていることが分かります。

また、4分の1近くを占めるビニール・ゴム・皮革類の中にもリサイクルできるプラスチック製容器包装が含まれています。そして、その処理にも多くの費用がかかっています。

このような現状を変えるためにも、一人一人がごみを正しく分別し、排出される可燃ごみの量をさ

らに少なくする生活を心掛けることが大切です。

一人一人ができること

雑がみは大切な資源です

雑がみとは、家庭から排出される古紙のうち、新聞・チラシ・雑誌・段ボール・飲料用パックのいずれの区分にも入らない物をい

雑がみは可燃ごみとして捨ててしまいがちですが、分別すればリサイクルすることができます。捨てずに資源物として分別しましょう。

市では、啓発用として各家庭で雑がみの分別をしやすくするため「雑がみ保管袋」を作成し、クリーン推進課(市役所5階)、行政資料室(市役所1階)、下総・大栄支所、各公民館などで配布しています。

プラスチック製容器包装を正しく分別

市では、プラマークのあるプラスチック製容器包装を、リサイク

ルできる資源物として週に1回収集しています。白色の指定袋に入れて、収集日に出してください。

リサイクルできるかどうかを確認資源物として回収できる物にはプラマークが付いています。ごみとして捨てる前に確認しましょう。

プラスチックのバケツや歯ブラシなど、品物そのものがプラスチック製品である場合は分別の対象になりませんので、可燃ごみとして出してください。

きれいに洗って、汚れやにおいを落とす

汚れや油の付いた物はきれいに洗い流し、汚れが落ちない場合は可燃ごみとして出してください。

やってみよう「3きり運動」

生ごみや食品ロスを減らすため「使い切り・食べ切り・水切り」の「3切り」を意識するようにしましょう。

買った食材は使い切る、料理は作り過ぎない、生ごみは出す前に水をよく切る、といったひと工夫でごみを減らすことができます。

日常生活で出るごみについて、いま一度見直すことが、リサイクルやごみの減量へつながります。

皆さんのご協力をお願いします。

※くわしくはクリーン推進課(☎20・1530)へ。